

伝統を守り、未来へつなぐ

大綱曳で町がひとつに

台風7号・8号の影響により、1週間延期となっていた「与那原大綱曳まつり」が8月2日（土）3日（日）に開催されました。まつりの最大の目玉であり、450年以上の歴史を誇る「与那原大綱曳」は、与那原大綱曳実行委員会によって、初夏のアシナバレーから大綱曳の終了まで無病息災、子孫繁栄、五穀豊穡、町の発展など祈りを捧げ、執り行われています。みんなで葦の状態から作り上げた東西合計長さ約90m、重さ約5トンの綱を、会場がひとつとなり、無心に曳き合いました。



1分53秒で東の勝利
夜は花火でフィナーレ

晴天に恵まれた8月3日、日曜日。午前中は拝所で安全祈願が行われ、午後からは国道331号で旗頭やガーエーが披露されました。士気を高めあった後、支度に乗せた大綱が御殿山青少年広場へ運び込まれ、午後5時過ぎ、東西のカナチに棒が差し込まれると、約1000人の曳き手が力いっぱい綱を曳き合いました。激戦の末、1回戦は1分53秒で東が勝利、2回戦は西が勝利しました。綱曳後は東西の旗頭が空に掲げられ、参加者全員で舞い踊り、会場は熱気に包まれました。

まつり会場の与那古浜公園では2日間にわたり、与那原中学校吹奏楽部など地元団体のステージ、音楽ライブ、初開催の氷彫刻大会など多彩な催しが行われ、来場者を魅了。最終日は545発の花火が夜空を鮮やかに染め、歓声が響き渡りました。今年は2日間で延べ6万人が訪れ、大盛況のまつりとなりました。

あの感動を
再び！
ライブ配信
アーカイブ公開中



ガーエー・道ジュネー



大綱曳



第43回

与那原大綱曳まつり